

金沢区福浦・幸浦地区の 護岸の復旧について

令和元年12月24日

横浜市 港湾局

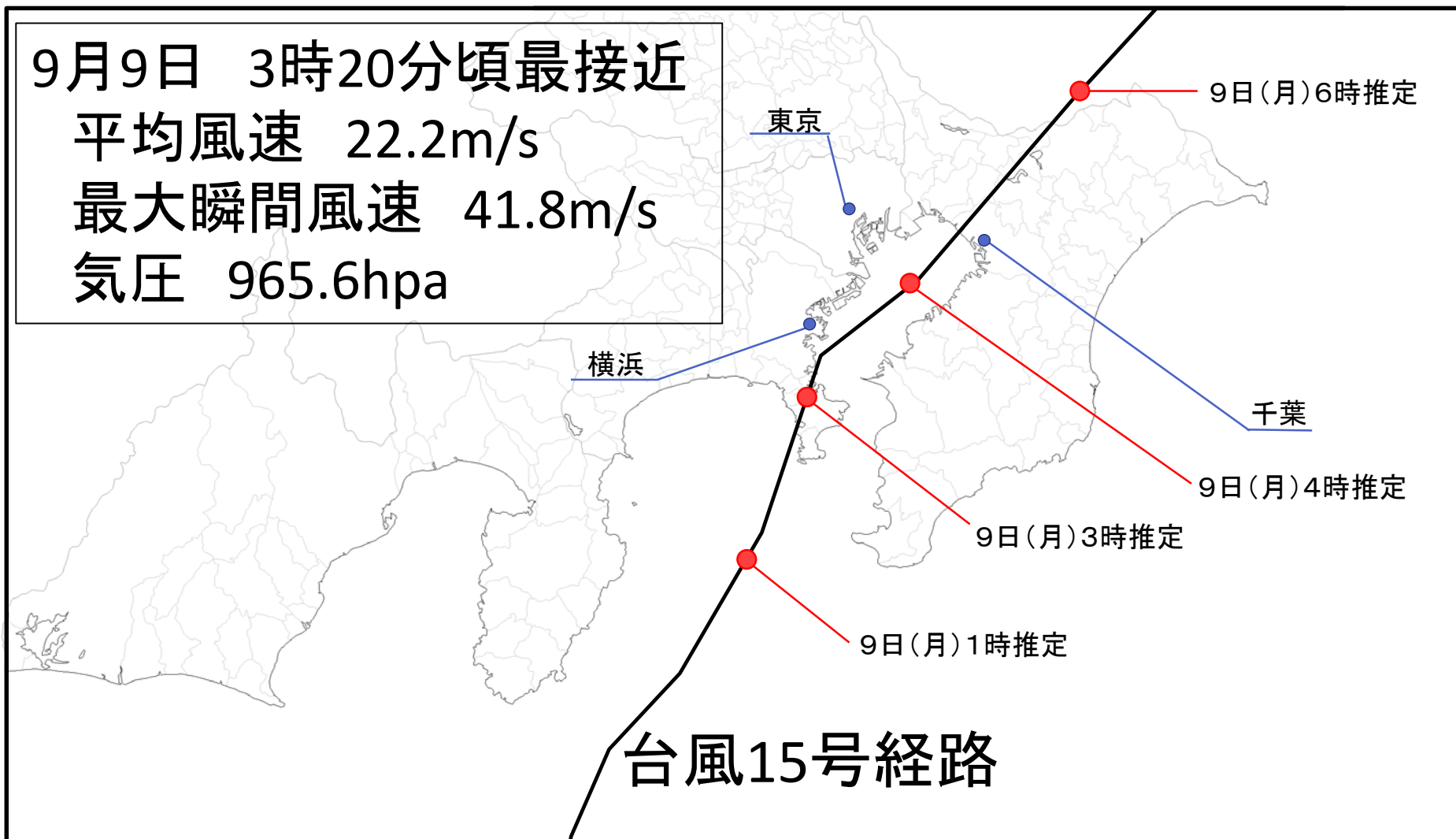
台風15号

9月9日 3時20分頃最接近

平均風速 22.2m/s

最大瞬間風速 41.8m/s

気圧 965.6hpa



護岸の被災状況（範囲）



護岸の被災状況



港湾局の応急対応

- 護岸の仮復旧
 - 福浦地区は9月18日完了
 - 幸浦地区は9月23日完了



台風19号

10月12日 20時40分頃最接近

平均風速 23.0m/s

最大瞬間風速 43.8m/s

気圧 961.6hpa

台風19号経路

12日(土)19時推定

横浜

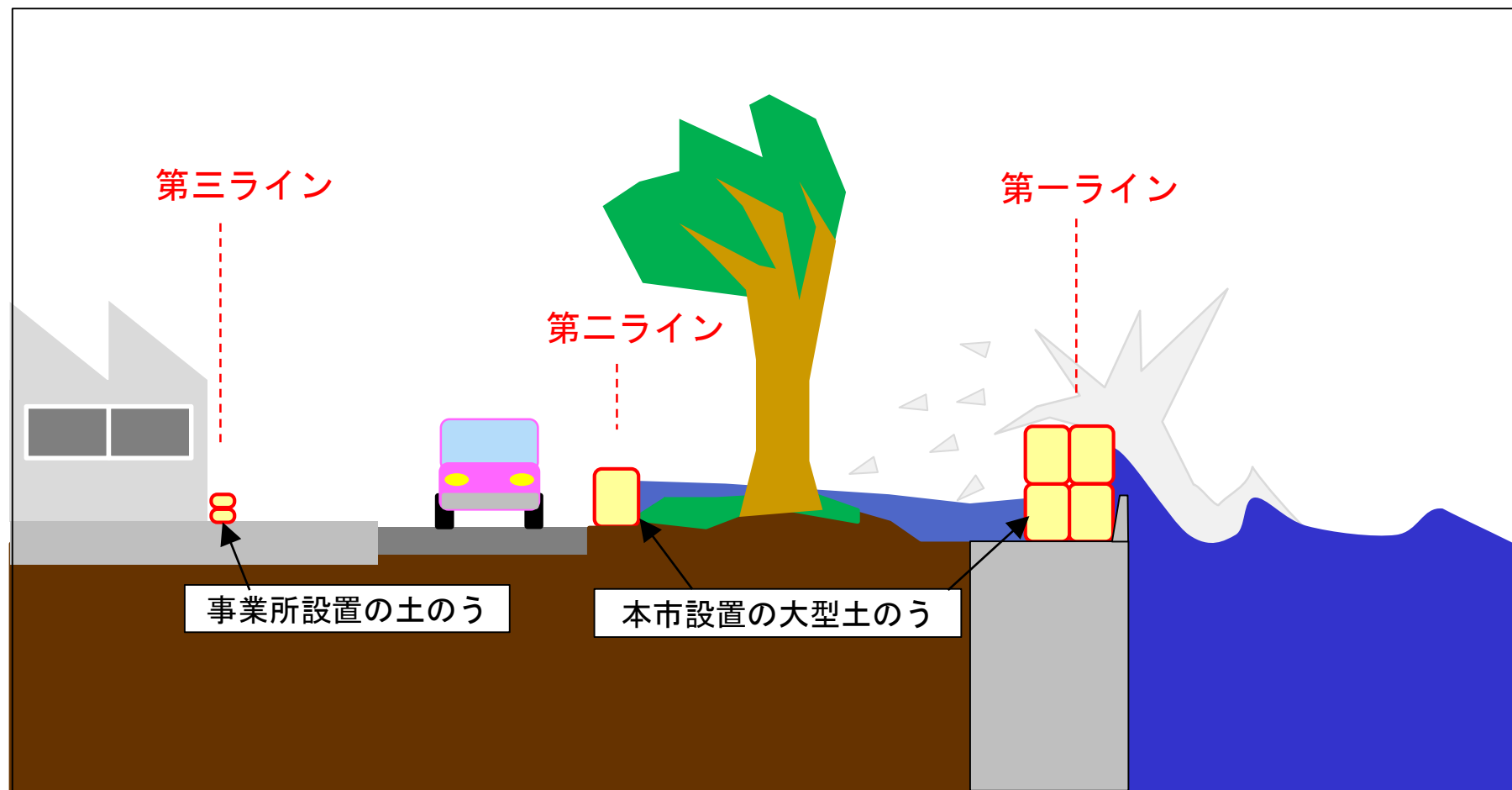
東京

千葉

12日(土)21時推定

金沢区福浦・幸浦における台風19号の浸水対策

- 台風15号により護岸上部が損壊したため、大型土のうを設置し応急復旧を実施
- 台風19号により土のう積みが一部崩壊したものの、三列に配置していたことで浸水被害を防止



越波の状況（台風19号）



越波の状況（台風19号）

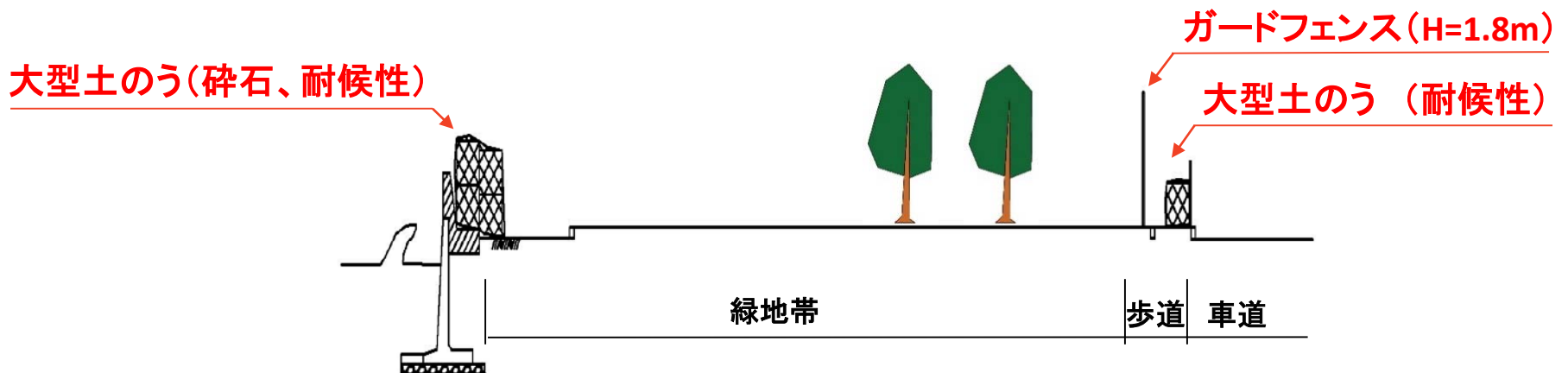


土のうによる浸水被害の防止



仮復旧について

○本復旧までの間、万全を期すために、土のうの袋を耐候性に、中身を砕石に変更、ネットで一体化し更に増強。また、立入りを防止するためガードフェンスを設置。



護岸復旧等の検討体制について

○国と横浜市で各々委員会を設置

■東京湾における高波対策検討委員会(国)
・設計波の見直し・護岸の設計手法の検討



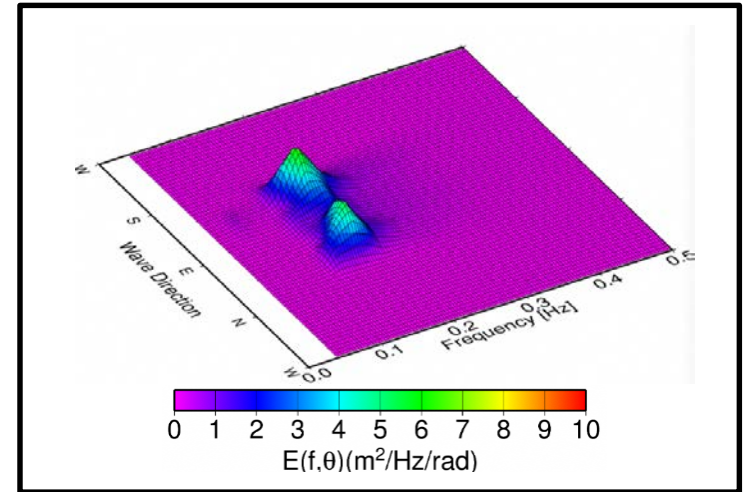
■横浜港護岸復旧工法検討会(横浜市)
・復旧断面の設計・工法の検討

○**合同会議(10月8日)での見解**として、強風と急激な風向きの変化により、二方向からの波(重複波)が発生し、護岸から戻る波と重なり合い、高波(概ね10m程度)が生じたと推定

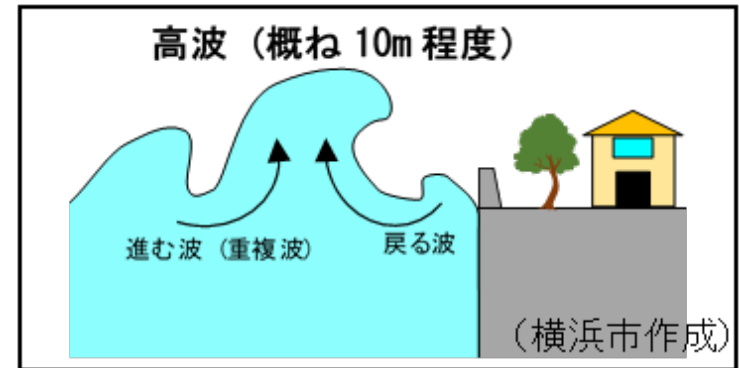
○国の委員会(11月25日)で**新たな設計波の考え方が示され**、これを受け、市の検討会(11月26日)で**福浦地区の護岸復旧方針**をとりまとめ。

○12月19日の検討会で、**福浦・幸浦地区の護岸復旧方針**をとりまとめ。

波浪のメカニズム



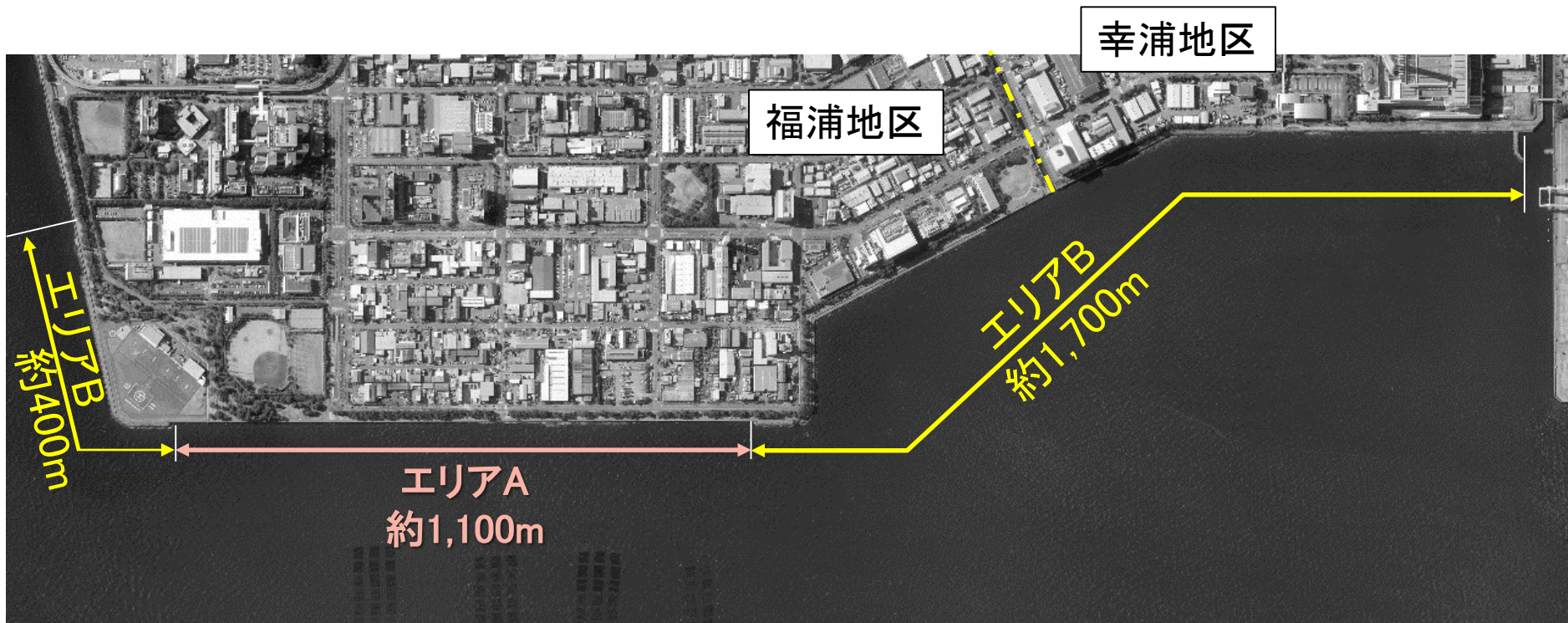
解析による波浪推算結果



高波発生イメージ

2. 福浦・幸浦地区の復旧方針（対象施設）

エリアA	消波ブロックが設置されていないエリア	約1,100m
エリアB	主に消波ブロックが既に設置されているエリア	約2,100m



復旧する護岸の設計の考え方

①観測史上最大の高潮被害をもたらした伊勢湾台風が、横浜港に最も大きな高潮を生じさせる経路を想定した場合の潮位

+

②台風15号による記録的な高波の高さ

+

③大潮の満潮位が重なった場合を想定



今後発生し得る最大の高潮・高波を
防護できる設計

福浦地区の復旧方針（復旧断面／エリアA）

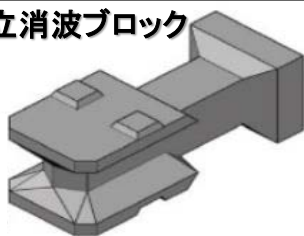
【主な特徴】

- ・ 既設護岸前面に直立消波ブロックとパラペットを設置し、考え得る最大級の高波を防護します。
(第1防護ライン)
- ・ 既設パラペット・護岸上の壁を2m程度を嵩上げし、波しぶきを護岸の外側で排水します。
(第2防護ライン)
- ・ 台風19号による浸水を食い止めた実績を踏まえ、緑地の道路側に防潮堤を設置します。
(第3防護ライン)

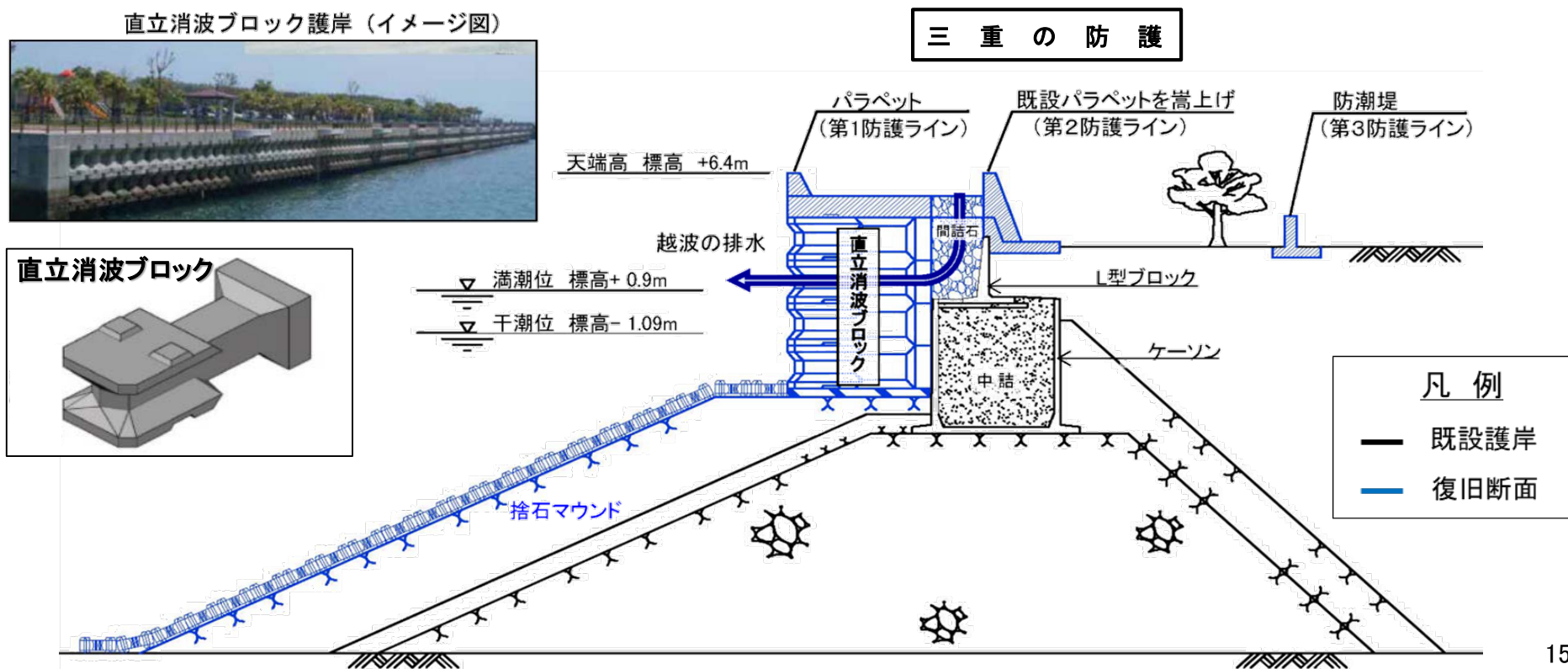
直立消波ブロック護岸（イメージ図）



直立消波ブロック



三重の防護

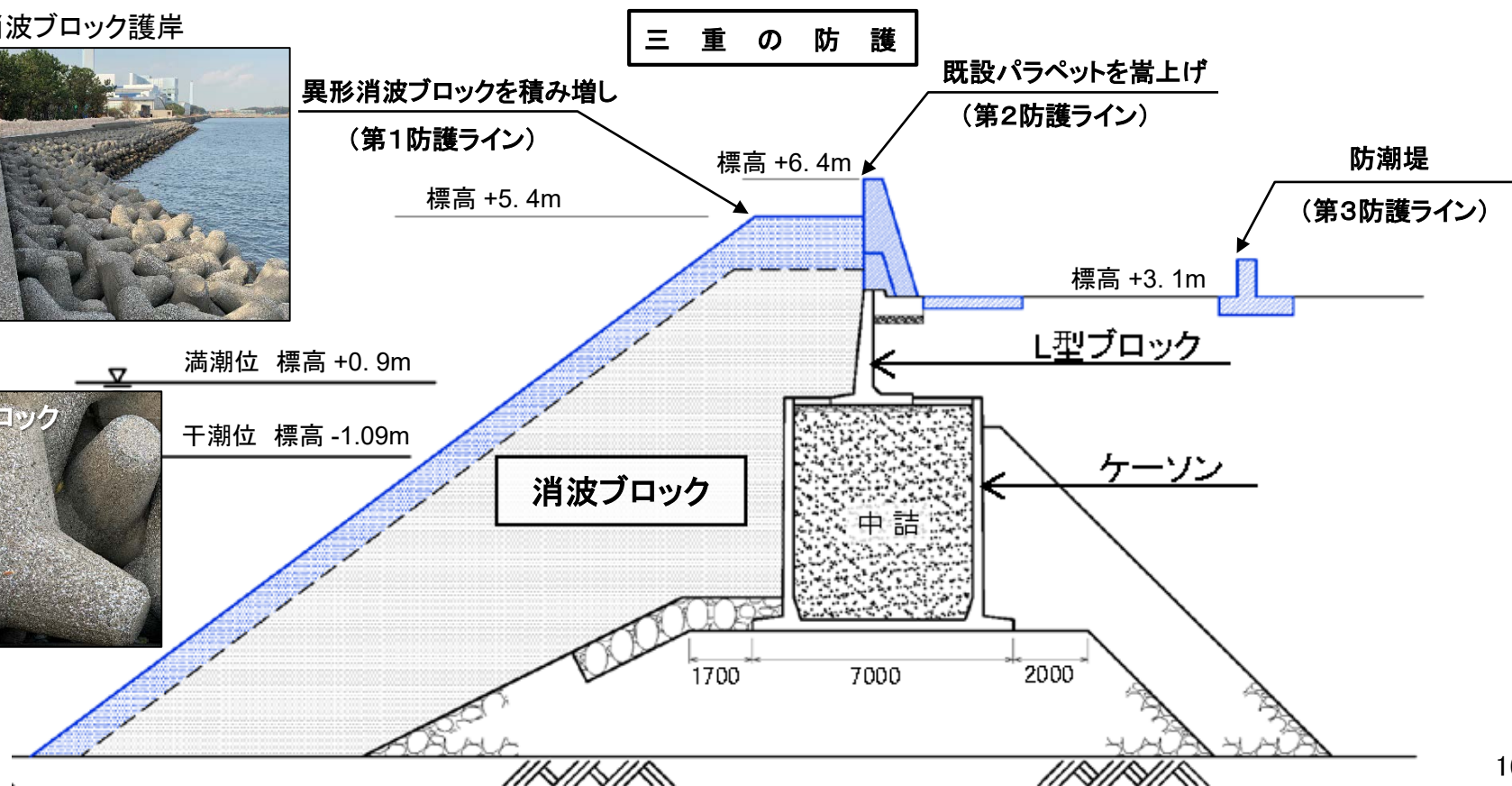


福浦・幸浦地区の復旧方針（復旧断面／エリアB）

【主な特徴】

- ・ 既設護岸前面に異形消波ブロックを設置または積み増して、考え得る最大級の高波を防護します。
（第1防護ライン）
- ・ 既設パラペット・護岸上の壁を2m程度を嵩上げし、波しぶきを護岸の外側で排水します。
（第2防護ライン）
- ・ 台風19号による浸水を食い止めた実績を踏まえ、後背地に防潮堤を設置します。（第3防護ライン）

異形消波ブロック護岸



今後の予定について

- 横浜市の12月議会において、横浜港全体の復旧費として、約36億円の補正予算が議決されました。
- 現在、国の災害査定を受けており、終わり次第、速やかに工事契約を行い、年明けから現地に着手します。
- 来年の台風シーズン前までに消波ブロックの設置や護岸の嵩上げができるよう、国や施工業者と一丸となり、全力で取り組んでいきます。